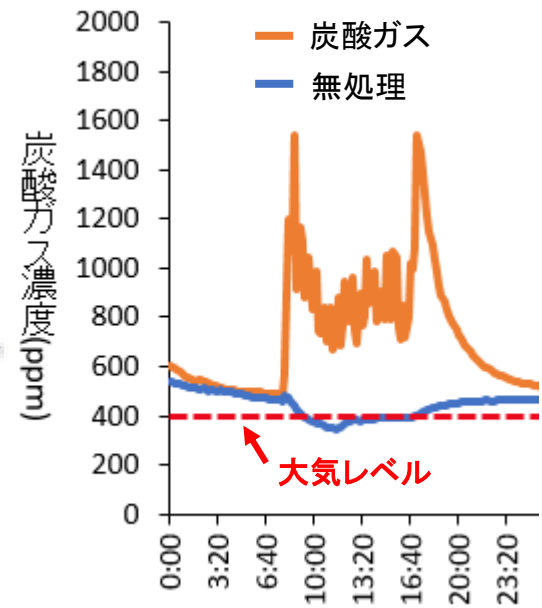


イチゴ新品種「とっておき」の炭酸ガス施用効果

炭酸ガス施用のポイント

- ・ 12月～2月まで日中(8時～16時)の炭酸ガス濃度を800～1000ppmに高める。
- ・ 吸肥力が上がるので肥料切れを起こさないように施肥を多めにする。
- ・ 効率的な施用を行うためにハウス内のモニタリングが重要。



CO₂濃度・温度・湿度
データロガー (TR-76Ui) で計測

無処理に対して24%増収
2月以降の収量が増加

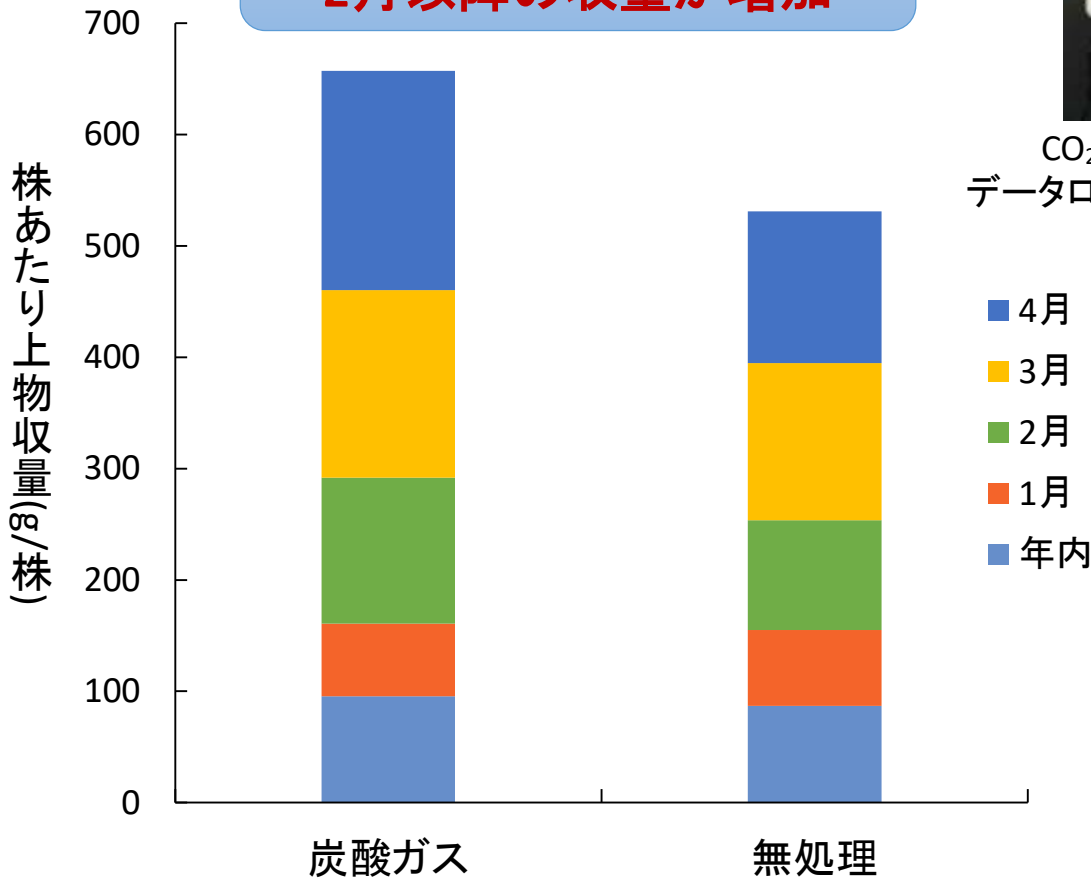
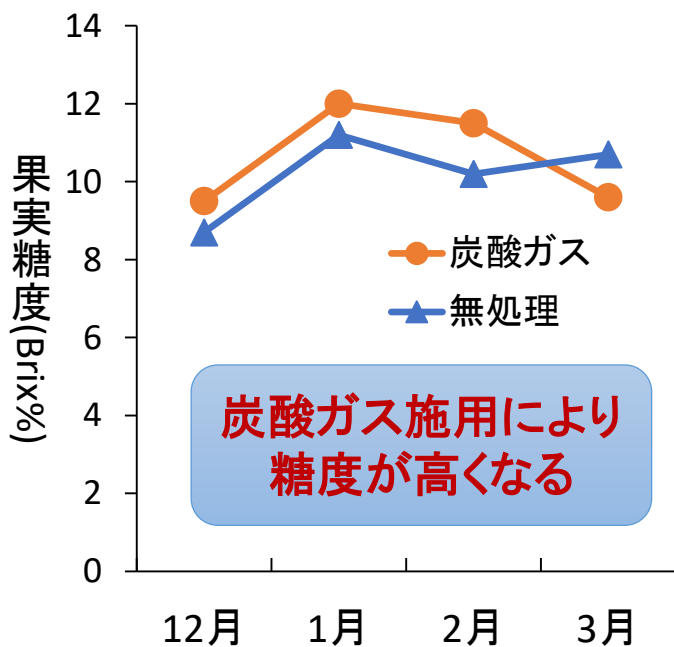


図1 炭酸ガス施用による増収効果



炭酸ガスを施用すると根量が増加
施肥を多めにするのがポイント



炭酸ガス施用により
糖度が高くなる

表1 費用対効果

処理	収量 (kg/a)	粗収益 (円/a)	灯油 使用量 (L)	灯油経費 (円/a)	収益差額 (円)
炭酸ガス	460.0	557,944	67.7	7,041	100,116
無処理	371.6	450,787	0	0	-

注) 粗収益は収量と1kg当たり平均単価(H29～R1の平均)を乗じて算出。
使用した液化CO₂量を同量のCO₂施用に必要な灯油量に換算して算出。
灯油1L当たり単価104円/Lで算出。

図2 果実糖度の推移